



収録報告

No.6

豊田支部 岸田 庄司

日時 平成29年3月15日(水)12時
場所 CBC放送センター7階 スタジオ収録
放送日 平成29年3月22日(水)、29日(水)

新・生活フロッピー〜〜〜!!! 若かりし頃から聞きなれた、つボイさんのこぶしの利いた声 flowed. 小高アナウンサーの優しい声が私を紹介している。意外と緊張していない自分がある。その目は下に置いた原稿を追っかけている。しかしいきなりアドリブで振られてしまった。高揚しているはずの私の頭の中は、別のことを思い出していた。



打合せ中

私は一年前、第1回のシリーズのスタジオ収録の見学に訪れている。CBCのスタジオに向かう車中では、その日の出演者K君と土地家屋調査士の制度広報として、いかにわかりやすくPRするか、原稿にはないアドリブはどこまで許されるかおしゃべりをしていた。

収録本番ではK君がガラスの向こう側のブースの中で緊張している。緊張をほぐそうと『顔が青いぞ』『リラックス』と声をかける。土地家屋調査士は立会などでコミュニケーション能力を磨いているはずが、マイクの前では勝手が違うのか、ポテンシャルの高いK君でもアドリブを入れることができず、原稿どおりで収録が終わっていた。



ブースをでたK君に『全然出来なかったじゃないか、チキンだな』とからかったが、一発OKでしっかりと伝えることが出来たと感心し、もし自分が出演していたらカミカミの最悪の滑舌になると想像していた。



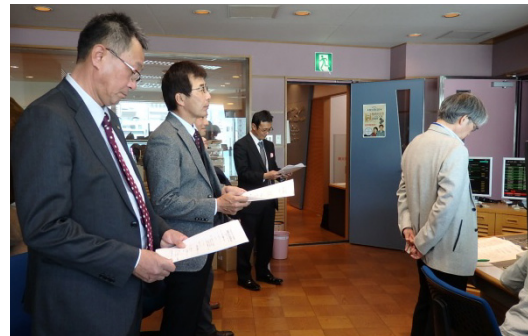
いざ、本番！

今回のシリーズは、土地家屋調査士の仕事内容だけでなく、その人となりを出演者の体験談や趣味などを通して紹介している。シリーズ最後の11・12回目の出演ということでちょっとだけ、責任が重いかもしれない。収録日の一週間前にやっと原稿が届いた。

スタジオ収録は土地家屋調査士業務の立会と同じである。事前の準備がその成否を分けるという思いで推敲していく。立会では土地境界のプロとの自負があり、事前準備さえ完璧であれば、どんなアドリブにも対応できる自信はあるが、マイクの前では一年前の経験から不安がよぎる。他の収録日の原稿を読み返し、漏れのないように少しでもわかりやすく、優しい表現となるよう、しかもアドリブ無しでも大丈夫なように推敲を重ねた。

その原稿が今、目の前に置いてある。一年前とは逆のガラスの向こう側には、私のことを心配してか、平井担当副会長・藤吉担当部長・佐々木専務理事・中島担当委員とK君がいる。

小高アナウンサーが私の趣味のことを聞いている。ガラスの向こうでは仲間たちがジェスチャーで何かを伝えようとしているが、幼少の頃より0.1以下の視力で、老眼の進んだ私は原稿の文字を追うために眼鏡は外している。



土地家屋調査士はおそらく少し変わった人たちの集まりである。その中でも特に変わっている私の趣味（趣味自体は変ではない）の話が制度広報のお役に立てるのか、判断している時間はない。などと考えているうちに、小高アナウンサーは既に話を原稿に戻している。

やはりアドリブにはうまく付いていけなかったようだ。後は原稿の棒読みにならないように、少なくとも目の前のつボイさんと小高アナウンサーに伝わるようにゆっくりとお話するしかなかった。

11 回目の収録に続きすぐに 12 回目の収録があり、あっという間に終わりました。自覚はなかったのですが、やはりずいぶん緊張していたのだと思います。

まだ現時点では私自身放送を聴いていませんので、うまくお伝えできたかどうか不安でいっぱいですが、今回のシリーズをお聞きいただいた CBC ラジオリスナーの皆様には土地家屋調査士の業務についてご理解いただき、また少しでも親しみを持っていただけますようお願いいたしますとともに、二年間にわたり本プロジェクトにご尽力いただきました関係者の方々に心より感謝いたします。



つボイさんと小高さんと記念撮影